

平成28年4月19日

**熱帯医学研究所のモイメンリン准教授が  
文部科学大臣表彰（若手科学者賞）を受賞**

熱帯医学研究所のモイメンリン准教授が、「熱帯病デング熱ワクチンと治療開発のための評価系構築の研究」の業績により、平成28年度の科学技術分野の文部科学大臣表彰（若手科学者賞）を受賞しました（業績概要は別紙参照）。今回対象となったデング熱の研究は、モイ准教授が国立感染症研究所時代から取り組んできたもので、ワクチンと治療薬の早期実用化を目指しています。

科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に対して、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、それにより、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とするものです。文部科学省の発表によると、本年度は全国で99人が同賞を受賞しました。

なお、表彰式は、平成28年4月20日に文部科学省3階講堂で行われます。

（モイ准教授のコメント）

この度は平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（若手科学者賞）を受賞させて頂き、大変光栄に思っております。

今回、ご評価いただいた熱帯病デング熱の研究は、長崎大学熱帯医学研究所と国立感染症研究所が共同で進めているものであり、熱帯医学研究所の森田公一所長、国立感染症研究所の倉根一郎所長、神奈川県衛生研究所の高崎智彦所長をはじめ、熱帯医学研究所のスタッフや学生の皆様、共同研究者の皆様など多くの方のご指導とご協力を賜り、受賞できたと深く感謝しております。

2014年のデング熱の国内流行まで、日本では無縁と思われていたデング熱ですが、ワクチンと治療薬が実用化されていないのが現状です。今回の受賞を励みに、国内外の研究機関と連携して、世界に向けたワクチンと治療薬の早期実用化を目指すと同時に、デング熱やジカ熱などの熱帯病の研究に、より一層、精進していきたいと思っております。

資料1のプレスリリースについてのお問合せは、  
国立大学法人長崎大学研究国際部研究企画課 阿南、山田までお願いします。  
電話番号：095-819-2041



氏名 MOI MENG LING (36歳)

現職 国立大学法人長崎大学 熱帯医学研究所 准教授

### 熱帯病デング熱ワクチンと治療開発のための評価系構築の研究

業績 デング熱は、世界的に年間約4億人が感染しているが、未だに治療薬・ワクチンが開発されていない。デング熱ワクチン・治療剤の開発には、病態形成の解明と有効性・安全性評価系の確立が最も重要である。

氏は、ワクチン・治療剤評価が可能なシステムを実現するため、ヒト型免疫レセプターFcγR発現細胞による新規検査法と、新世界ザルマーモセットを用いた疾病モデルを国内外の研究機関との共同研究で開発した。更に、病態形成の基盤となる免疫学的機序を明らかにするため、氏は独自に開発した新規検査法とモデル動物を組み合わせた方法によりその機序を明らかにし、新治療薬開発のための基盤を確立した。

本研究成果により、ワクチンの実用化及び新規治療薬開発を促進させることが大いに期待される。

主要論文：「Detection of higher levels of dengue viremia using FcγR-expressing BHK-21 cells than

FcγR-negative cells in secondary infection but not in primary infection」Journal of Infectious Diseases, p1405~1414, 2011年5月発表

「Demonstration of marmosets (Callithrix jacchus) as non-human primate model for secondary dengue virus infection: high levels of viremia and serotype cross-reactive antibody responses consistent with secondary infection of humans」Journal of General Virology, p591~600, 2014年3月発表